

第5次総合計画前期基本計画の振り返りについて(概要版)

取組名		10年後に目指したい将来像	振り返りの総括
2	地域で支えるまちづくり	人口減少下においても活力がある地域の将来像が地域計画等として共有され、多様な住民の参加が進み、自治区・自治会をはじめテーマ型活動団体や事業者・団体等、市との連携を通じて、自分自身の手で住みたい・住み続けたいと思えるような地域づくりが進められています。	<p>前期計画期間では、多様な住民の参加により、だれもが住みよい地域コミュニティづくりを進めるため、区・自治会連合会及び単位組織への支援を行うとともに、地域課題の解決に向け、地域活動を担っている様々な団体や住民と協働・共創し、地域力の向上に取組むまちづくり協議会や地域福祉を支えるふれあい活動推進協議会、ボランティア活動団体等への支援を行うなど多岐にわたる取組を進めた。</p> <p>成果指標では、区長・自治会長における女性比率は増加傾向にあるが、目標には至っておらず、地域活動へ参加している人の割合については減少傾向にあるなど、地域活動の担い手が少なくなっていることが課題と考えられる。</p> <p>後期計画では、人口減少下においても持続可能な地域コミュニティを形成するため、住民自身が地域課題や将来像を共有するとともに、地域活動の負担軽減、若年層や女性をはじめ多様な住民の参加を促す取組を進める必要がある。</p>

市民意識調査の結果		指標等の進捗状況						
重要度	3.75	指標名	基準値(R2)	方向性	R4	R5	R6	目標R8
重要度平均からの偏差	-0.23	1 地域活動へ参加している人の割合	29.7%	↑	33.2%	34.9%	29.6%	45.0%
重要度順位	21/25位	2 区長・自治会長における女性比率	8.4%	↑	6.7%	7.3%	8.6%	15.0%
満足度	3.01	3 隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	15.0% (H30)	↑	13.9% (R3)	18.0%	14.6%	30.0%
満足度平均からの偏差	-0.07							
満足度順位	15/25位							

《前期基本計画》

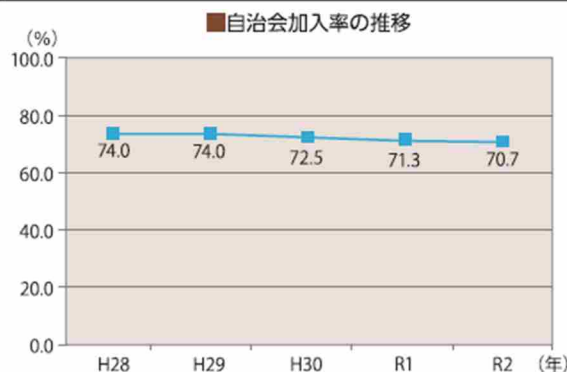
「ひと」のチカラを育み、活きるまち ～輝く人づくり～

2 地域で支えるまちづくり

1. 10年後に目指したい将来像

人口減少下においても活力がある地域の将来像が地域計画等として共有され、多様な住民の参加が進み、自治区・自治会をはじめテーマ型活動団体※や事業者・団体等、市との連携を通じて、自分自身の手で住みたい・住み続けたいと思えるような地域づくりが進められています。

2. 10年後に心配される三田の状況	3. 10年後に目指したい三田の状況	取り組み
A 地域活動の負担が過重となり、地縁団体※の役割が十分に果たせていないこと	→ 地縁団体の役割が明確化されて活動がスリム化し、地縁を活かすべき活動に注力できていること	①
B 家族や地域のつながりが希薄化し、人々の孤立が進んでいること	→ 住民交流が日常化して顔の見える関係づくりができ、有事の際の助け合いの基盤となっていること	①
C 地縁団体の役員をはじめとする地域活動の担い手が少なくなっていること	→ 様々な形で若者や女性が積極的に地域活動に参画し、全住民による地域づくりの機運が醸成されていること	②
D 地縁団体による活動とテーマ型の団体や事業者の活動が連携されず、地域力が十分に発揮されていないこと	→ 地域課題に関する連携基盤が形成され、課題やニーズ、対応可能な資源と各セクターとのマッチングや連携ができていること	③
E 地域コミュニティに関する理念や目標等が共有されず、行政、市民、事業者・団体等の活動が縦割りとなり、総合化されていないこと	→ 基本的な理念・目標像やルールを共有を通じて、それぞれの力が結集され、包括化された交付金等を活用して地域特性を発揮した住民自治が実現されていること	④
F 地域において様々な生活上の不安や課題を抱え、援助が必要な家庭が増える中、十分な支援が受けられず、市民の不安が増大していること	→ 身近な地域の中で見守り活動や支援活動が活発に行われ、誰ひとりとして取り残されることなく必要な支援が受けられ、不安の解消が進んでいること	⑤



※テーマ型活動団体
地縁団体に対し、NPO、ボランティア組織等特定テーマの下に組織され活動する団体をいう。
※地縁団体 12ページ参照
※まちづくり協議会 44ページ参照

※地域担当
地域の課題や市民ニーズを把握しながら、様々な協力や情報の提供を行い、地域コミュニティの活性化と市民力・地域力の向上を図り、協働のまちづくりを推進することを目的として、市民センター等に配置する市職員をいう。
※補助金・交付金の包括化
地域に組織された団体等に対して目的別に交付されてきた補助金等を可能な限り一括して交付し、地域計画等に基づいて住民の判断で用途を決定できるようにすることをいう。

《後期基本計画(素案)》

「ひと」のチカラを育み、活きるまち ～輝く人づくり～

【2】 地域で支えるまちづくり

1 10年後に目指したい将来像

人口減少下においても活力がある地域の将来像が地域計画等として共有され、自治区・自治会をはじめテーマ型活動団体や事業者・団体等、市との連携を通じて、多様な主体の参加が進み、時代の変化に柔軟に対応しながら住みたい・住み続けたいと思える地域づくりが進められています。

2 10年後に心配される三田の状況	3 10年後に目指したい三田の状況	取り組み	指標
A 地域活動の負担が過重となり、地縁団体の維持が困難になっていること	→ 地縁団体の役割が明確化されて活動がスリム化し、地縁を活かすべき活動に注力できていること	③	c
B 家族や地域のつながりが希薄化し、人々の孤立・不安が進んでいること	→ 住民交流を通じて顔の見える関係ができ、有事の際の助け合いの基盤となっていること	③	a・b
C 自治会加入率が急速に低下するなど、地縁団体の役員をはじめとする地域活動の担い手が少なくなっていること	→ 若者や女性をはじめとした多様な住民の意見が地域活動に活かされ、学生との連携によって活気ある地域づくりの機運が醸成されていること	②	b
D 地縁団体による活動とテーマ型の団体や事業者の活動が連携されず、地域力が十分に発揮されていないこと	→ 地域課題に関する連携基盤が形成され、課題やニーズ、対応可能な資源と各セクターとのマッチングや連携ができていること	③	c
E 地域の将来像や課題が共有されず、行政、市民、事業者・団体等の活動が縦割りとなり、総合化されていないこと	→ 地域の将来像や課題の共有化を通じて多様な主体の力が結集され、地域特性を発揮した住民自治が実現されていること	①	c
F 地域において様々な生活上の不安や課題を抱え、援助が必要な家庭が増える中、十分な支援が受けられず、市民の不安が増大していること	→ 身近な地域の中で見守り活動や支援活動が活発に行われ、誰ひとりとして取り残されることなく必要な支援が受けられ、不安の解消が進んでいること	④	a

4. 取り組み

▶ 市民

- ◆住みよい地域づくりを自分ごととして関心を持ち、地域計画づくりや自分が出来る活動等に取り組みます。
- ◆参加、発言しやすい雰囲気づくり等、すべての住民が参加しやすい地域活動のあり方を工夫します。
- ◆積極的に自治会活動等に参加し、普段から顔の見える関係づくりに努めます。
- ◆近隣住民同士の見守り、助け合い、支え合いに関心を持ち、支援のネットワークの一員として自らができる活動に取り組みます。

▶ 事業者・団体等

- ◆地域の一員としての意識をもって事業活動を行うとともに、地域の未来像を住民と共に考えます。
- ◆組織がもつ様々な資源やスキルを活かした地域貢献について積極的に考え、取り組みます。
- ◆地域の未来像を共有しながらその実現に向け、多様な団体が協力し、取り組みます。

▶ 市

① 交流と安心の拠り所となる区・自治会の支援

行政やまちづくり協議会[※]等との役割分担等を見直しながら区・自治会の役割を整理し、負担の軽減を通じて住民主体の交流と安心の基盤としての役割を十分に発揮できるよう支援します。

② 若者や女性をはじめ多様な住民の参画による活力あふれる地域づくりの支援

会議の開催方法の見直しや地域計画等の策定に向けた世代別ワークショップの開催等を支援し、経験豊かなシニアや活力あふれる若者、女性をはじめとする多様な住民の参加を促します。地域担当[※]を中心に、地縁活動の担い手を広げるための働きかけ等地域の実情に応じた支援に努めます。

③ 住民主体の地域づくりに向けたまちづくり協議会等への支援強化

地域担当や市民センターの機能強化、デジタル技術の活用等を通じて、地域活動の負担軽減や意思決定の透明化を支援します。まちづくり協議会等が、地域の特性や特徴を踏まえた地域計画等をもとに、地域の未来像を共有しながら市民、事業者・団体等、行政の多様な力をつないで創造的に解決できるよう地域担当を中心に支援します。

④ 持続可能な住民主体の地域づくりに向けた条例や交付金制度の整備

(仮称)コミュニティ条例の制定等を通じて区・自治会やまちづくり協議会等の定義や役割を明確化します。市による支援や事務処理基準の明確化や補助金・交付金の包括化[※]等を通じて、市と市民等が目標を共有しながら、主体的に活気ある地域づくりに取り組むための環境整備を、実情に応じて進めます。

⑤ 実情に応じた地域での見守りや支援活動のネットワークを強化

ふれあい活動推進協議会とまちづくり協議会等の役割を地域の実情に合わせて整理を促し、地域における主体的な見守り、助け合い、支え合いの活動を促進するため、地域福祉活動の担い手の拡大やネットワークづくりを支援すると共に、迅速な対応が図れるよう相談支援体制の充実を図ります。

5. 成果指標等

指標名	基準値	基準年	目標値(R8)
地域活動へ参加している人の割合	29.7%	(R2)	45.0%
区長・自治会長における女性比率	8.4%	(R2)	15.0%
隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	15.0%	(H30)	30.0%

■ 主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市まちづくり基本条例
関連計画	三田市協働のまちづくり基本指針、三田市地域福祉計画、三田市男女共同参画計画

4 取り組み

市民

- ◆住みよい地域づくりを自分ごととして関心を持ち、地域計画づくりや自分が出来る活動等に取り組みます。
- ◆参加、発言しやすい雰囲気づくり等、すべての住民が参加しやすい地域活動のあり方を工夫します。
- ◆積極的に自治会活動等に参加し、住民同士の活発な交流を通して、普段から顔の見える関係づくりに努めます。
- ◆近隣住民同士の見守り、助け合い、支え合いに関心を持ち、支援のネットワークの一員として自らができる活動に取り組みます。

事業者・団体等

- ◆地域の一員としての意識をもって事業活動を行うとともに、地域の将来像を住民と共に考えます。
- ◆地域課題の解決に向け様々な資源やスキル・技術の積極的な活用方策を考え、取り組みます。
- ◆地域の将来像を共有しながらその実現に向け、多様な団体が協力し、取り組みます。
- ◆様々な催しによる交流の機会創出に取り組みます。

市

① 未来に繋がる地域計画等の策定支援と交付金等の制度の見直し

将来に渡り、時代の変化に柔軟に対応しつつ、地域課題や将来像を共有できる地域計画等の策定・更新に向けて、多様な世代が参加できるワークショップの開催等を支援します。あわせて、補助金・交付金の包括化等により、地域の実情に応じた活動の枠組みを選択できる環境を整備し、住民主体の地域づくりを推進します。

② 若者や女性をはじめ多様な人々の参画・学生との連携による活力あふれる地域づくり

地域と協働して活動する地域内外の団体や学生との連携による取り組みを支援するとともに、デジタル技術等の活用により、会議の開催方法や手続きの効率化を推進することで若者や女性をはじめとする多様な人々の参加を促します。

③ 住民主体の地域づくりに向けた自治区・自治会やまちづくり協議会への支援

自治区・自治会の活動維持に向け、誰もが参加しやすいものとなるよう負担の軽減を図ります。また、まちづくり協議会がネットワーク機能を発揮し、市民、事業者・団体、市等の多様な力をつないで地域が創造的に課題解決していけるよう地域担当を中心に支援します。

④ 実情に応じた地域での見守りや支援活動のネットワークを強化

地域における主体的な見守り、助け合い、支え合いのふれあい活動等を促進するため、実情に応じた地域づくり支援及び相談支援を推進します。地域の実情に応じて、ふれあい活動推進協議会とまちづくり協議会等の役割の整理を促し、効率的な活動に向けて、担い手の拡大やネットワークづくりを支援します。

◆ 評価指標

	指標名	現状値(基準年)	目標値(R13)
	KGI 施策重要度・満足度(市民意識調査)	重要度 3.75pt 満足度 3.01pt	↑
a	KPI 隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	14.6%(R6)	30.0%
b	KPI 地域活動へ参加している人の割合	29.6%(R6)	45.0%
c	KPI 地域計画の策定団体数	5(R7)	20

◆ 主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市まちづくり基本条例
関連計画	三田市協働のまちづくり基本指針、三田市地域福祉計画、三田市男女共同参画計画

最上位指標

市民の幸せ実感度の向上

【資料30-3】

	KGI（成果指標）	KPI（活動指標・取組指標）		現状値	目標値 (R13)	指標の設定理由	所管課
2 地域で支えるまちづくり	施策重要度 施策満足度	-	新規	重要度 3.75pt 満足度 3.01pt	向上	全施策固定指標	-
		隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	継続	14.6% (R6)	30.0% (R13)	共生社会の推進にあたり、困ったときに助け合えると考える市民の割合を継続して調査し把握しておく必要があり、本指数は市民満足度の重要な判断材料となる。前期計画の基準値が15.0%、R8目標値が30%、R6実績値が14.6%であることからR13目標値も同じ目標値である30%と設定する。	地域づくり推進課
		地域活動へ参加している人の割合	継続	29.6% (R6)	45.0% (R13)	協働・共創のまちづくりを推進するにあたり、市民の地域活動へ参加している人の割合を継続して調査し把握しておく必要があり、本指数は市民満足度の重要な判断材料となる。前期計画の基準値が29.7%、R8目標値が45%、R6実績値が29.6%であることからR13目標値も同じ目標値である45%と設定する。	地域づくり推進課
		地域計画の策定団体数	新規	5 (R7)	20(R13)	地域計画等の策定・更新の過程において、住民同士が地域課題や将来像を共有し、対話を重ねることで住みよいまちづくりに繋がるため。	地域づくり推進課